
電子精霊使い

なんごくピョーコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

電子精霊使い

【Nコード】

N8253J

【作者名】

なんごくピエーロ

【あらすじ】

オークションバイヤーの女子高生の七海（少々守銭奴ぎみ）は、偶然「謎の電子精霊」を手に入れ「謎の人々」とネットを介した頭脳戦（だましあい？）を繰り広げることになる。――

――ヤフオクや株投資を、架空のお話に書き換えてみました。

No.01 本業：女子高生

副業：オークションバイヤー（前書き）

リアルをファンタジーに

お楽しみください。

No.01 本業：女子高校生 副業：オークションバイヤー

南西暦1999年9月22日

九州の小さなベンチャー企業と専門学校の学生が開発、後に「電子精霊」と呼ばれる3Dデジタルペット「BOOKa」が誕生。

手のひらサイズの洋書を模して作られ、表紙を開くと2面の液晶モニターから、映像を空間に投影する3D技術が特徴。

ありとあらゆる動物&架空の生物「デジタルペット」電子精霊」をリアルに産み出し、ユーザーとAIの会話を楽しむ、対話システムに重点を置いた子供用玩具として発売。

当初それほど注目されなかった3Dデジタルペット「BOOKa」は、オンライン接続により電子マネーとの連動、デジタル機器への電力供給機能が追加される。

「電子精霊」の種類 空間投影グラフィック AI性能は バージョンアップのたびに飛躍的に進化し

南西暦2010年

道歩く人々の傍らには、様々な姿形をした「電子精霊」が寄り添っている。世界は「電子精霊」ナシでは機能しないほど、日常に溶け込んでいた。

本業：女子高生 副業：オークションバイヤー

中古リサイクルショップ ブックラフ 那^{なのは}之霸高校前店。

店内は放課後モードの学生でこった返していた。

「ちょっと通してください、あつ、ごめん！！通して〜」

ジャンプコミックを団体で立ち読みしている男子をかきわけて、彼女は奥に進む。

重そうな学生カバンを抱え、右手にも何やら沢山の荷物の入ったシヨッピングバック。紺色のブレザー服、栗色の長い髪を緩く左右みつ編みにした、丸顔に、黒目の大きな愛らしい顔立ちの少女。

彼女は、店の一番奥のデジタルペット「BOOKa」コーナーにたどりついた。

壁一面ガラスケースの中に陳列された「Booka」は、まるで映画で見た魔法学校の図書館をほうふつとさせる。

さらに、レジ前の鍵のかかったショーケースの中には、美しい装丁された一冊ウン万円の高級品や、宝石が埋め込まれ「非売品」札が貼られているモノがある。

しかし、彼女はそれには目もくれず足早に通り過ぎると、裏窓際のワゴン前、ホコリを被って乱雑に山積みされた「BOOKa」の前

で立ち止まる。

1冊100円 5冊まとめ買い300円

お買い得とは名ばかりの不良在庫処分コーナー

南風原なえばる 七海ななみは、軽く腕組みをして処分品の山を眺める。

おっとりとした雰囲気少女は、突然 瞳の奥に火がともった様に
眼光鋭く、迷いのない素早い動作で、商品を探しはじめた。

ざっと見ただけで100冊近くあるガラクタを、ガサガサと漁りながら、確実に一品ずつ選り分けて吟味する。その表情は、瞳をキラキラ輝かせ、口元はほころび、昂揚したホホにエクボが浮かんでいる。

七海は、目に付けた数冊の中から、今朝の目覚ましテレビでチェックした「星座占い今日のLUCKYカラー オレンジ」の表紙を5冊選ぶと、踊るような足取りでレジへ向かった。

「やあナナちゃん、今日はキミの御眼鏡にかかったレアアイテムは
見つかったかな？」

手入れをしないボサボサ頭が肩まで伸びた、猫背で痩せ気味の男が
レジの中から親しげに声をかける。

「今日は人が多すぎてじっくり本が探せないよ。仕入れはお休み。
店長、このポイント全部使えるでしょ。」

5冊まとめ買い300円 不良在庫処分なら、限定ポイントを使っ

て無料購入できる。

「うわあ〜相変わらずすっかりしているねえ。先週はオークションでせどり1000円本が5000円で落札されて儲けただろ。」
「いつも、運良くオークションの落札者が見つかるとは限らないからね。×る所は×ないと。」

「ナナちゃん、ちょっと守銭奴入っているよ(泣)」
店長と彼女の会話は、学生客というより業者と仕事話をしているようだ。

少し妬みの入ったような店長の口調に、七海は振り返りニッコリ微笑む。

「どういたしました店長。そういえばレジの真上に吊るされているアコギ(アコースティックギター)最近話題の美少女アニメ主人公が使っているタイプだから、値札の0を一桁増やしたほうが良いですよ。」

帰り際、小声でつぶやいた彼女の言葉に、店長&スタッフ&側にいた常連客は騒ぎ出す。

「おい!!早く梯子もってこい!アレを降ろせ」

「このギター5000円だね。買います!!」

「いやあ、お客さんちょっと待ってください。コイツは非売品です」

「店長〜ほら〜受け取れよ(5000円をエプロンに押し込む)」

「お客さん、これはお返しします!!梯子に登るなあ〜!!」

店内レジ前で、店長と客のギター争奪バトルが巻き起こり、1時間

押し問答が続いた。
なんとか買われずに済んだ 非売品ギター を抱えながら店長はポツリとつぶやく。

「俺にも、あの「目利き」の才能があれば、店をもっとデカくできるのにな」

ソレもそのはず、

南風原 なえばる 七海 ななみ 本業：女子高生 副業：オークションバイヤー

元々浮世離れしていた性格の父親が、いきなり公務員を退職して、町を離れ離島に移住し素人農業を始めてしまった。

それから生活が一変、学生の兄と七海は、生活ギリギリの仕送りで二人暮らしを始めるコトになった。

お米と野菜は送られてくるから、なんとか飢える心配は無いけど

自分の小遣いは自分で稼ぐがなくてはいけない！！

仕方なく、手持ち品を売って小遣いにしようとネットオークションに参加したところ、七海の中に眠っていた「目利き」の才能と「強運」が開花することになる。

ガラクタの山から彼女が探し出す商品は、不思議なほど次々と高値で落札され、リサイクルショップの店長から、何度もスカウトを受けるほど「目利き」の才能を発揮しだした。

そんな彼女だから

アレを見つけ出し アレと出会うことも

偶然というより 必然だったかもしれない。

No.01 本業：女子高生

副業：オークションバイヤー（後書き）

9 / 18 加筆&訂正

No.02 電子精霊 オフィーリア0003

そんな彼女だから
アレを見つけ出し アレと出会うことも
偶然というより 必然だったかもしれない。

電子精霊 オフィーリア0003

南風原七海 ななみ はなばる 本業：女子高生 副業：オークションバイヤー

中古本リサイクルショップでギター争奪戦が起こっていた頃、その原因を作った少女は、マクドナルドのテーブル席で手に入れた戦利品をチエックしていた。

3Dデジタルペット「BOOKa」基本は子供用玩具。
しかし、デジタル機器への電力供給機能と電子マネー機能が付いたことにより、人々は「電子精霊」を生活必需品として連れ歩くことになる。

実体を持たない映像だけの存在「電子精霊」だが、それに魅入られた人々は、グラフィックを自分好みにカスタマイズするため金をつぎこみ、「レア電子精霊」は、まるで高価な宝石のようにプレミア価格でトレードされるといふ。

「これはハズレね、電源も入らない。部品取りで買う人はいるかな？」

中古の薄汚れた「Book a」をいじる七海の姿を、ななめ向かいの席に座る若いビジネスマン風の男が、鼻で晒う素振りを見せる。

男は、仕立てのよいスーツの胸ポケットから、シルバーの最新型「BOOK a」を取り出し起動する。

サッカーボール程の大きさをした炎の塊が飛び出し、それが獅子の姿に変化する。

炎をまとった獅子「電子精霊」は獲物に襲い掛かるように、いきなり七海に向かってくる。

「えっ、なに！！きゃっー」

突然目の前に現れた小型の獅子に、七海は驚いて悲鳴をあげ体をのけぞらし、誤って肘でドリンクを倒すと、それがテーブルの上に置いていた「BOOK a」に掛かってしまう。

「あゝあつ、ゴメン驚いた？これ映像だから噛み付かないんだけど。ガラクタが壊れちゃったかな。ちゃんと弁償するよ。」

男は、彼女を舐めるように見つめながら、わざとらしく大声で詫びる。

どうやらナンパに「電子精霊」を使った悪戯を仕掛ける趣向があるようだ。

店内の好奇の目が、栗色の長い髪を緩く左右みつ編みにした、愛らしい顔立ちの女子高生に注がれる。

戸惑ってうつむいてしまう（ように見える）彼女に、男はコーヒー

を差し出した。

… 七海はソレを受け取ると、乱暴に目の前のゴミ箱にコーヒーを投げ込む。

「おじさん、次は 熱いコーヒーで顔を洗ってあげる。なにそれ？まさか、ポ@モンバトルのつもり？」

顔を上げた少女は、怒りに燃える目で、いたずらにナンパを仕掛けて、大切な商品を駄目にした相手を睨み付ける。男の出した高価な「レア電子精霊」も、子供用玩具としか認識してない七海には意味のない行為だった。

七海は、ココから逃れたい一心で店を出ようと立ち上がる。

と、鞆にガラクタが1冊残っていたことに気が付く。

手に入れた5冊の中で、一番古くて汚れの目立つ「BOOKa」でも、刺繍を全面に施されて凝った装丁に、鈍い色のガラス（宝石？）がはめ込まれ、黄ばんで擦り切れた縁取りは金糸が使われている。

なにか なにか なにか コレは 胸騒ぎがする！

七海は無意識のうちに「BOOKa」を鞆から取り出すと、背表紙のP A W E Aスイッチを押した。ボタンは黄色に点灯、R e e R e e 鈴のような機械音。

「ラッキー、この「電子精霊」は生きている。ちゃんと起動してね。」
表紙を開くと、液晶パネルにキーボードとパスワード画面が表示される。

しかし 1 1 1 1 1 2 3 4 7 7 7 7 思いつく、どの数字を打ちこんでも駄目。

何度も試して上手く行かず諦めかけた時、七海は、ふと、表紙の右端に掠れて消えかかった4桁の数字が書かれているのを見つけた。

奇妙な予感がする。

ドキドキと胸の鼓動が激しく鳴り響き、七海の指先の震えは止まらない。

息を整えながら、間違えないように、慎重に微かに判読できるその数字を打ち込む。

O p h e l i a ｝ オフィーリア 0 0 0 3 ｝ H P : * * * * *

その瞬間、開いた本からまばゆい光の柱が立ち上がり

目の前に浮かび上がったのは、

白黒の優雅な文様の大きな蝶の羽

純白のレースを幾十も重ね合わせたセミロングドレス

細く長い手足、雪のような白い肌

紅い目、紅い唇 緩くウェーブのかかった薄桃色の長い髪

息を呑むような美しさの、妖精タイプ「電子精霊」

くるり

くるり

くるり

可憐な精霊は、優雅にダンスを踊りながら舞い降りる。この世界に誕生した喜びで羽を打つ振るわせながら、ドレスの裾を持ち上げ、七海に会釈する。

「初めまして マイ マスター

私の名前は オフィーリア0003 どうぞ宜しくお願いします。

これよりBOOKaマスター登録を開始します。」

液晶パネルに、利用規約・プライバシーポリシー・個人情報保護等の説明が表示された後、

自動で店内の無線LANに接続、オンライン登録が始まる。

バイオメトリクス認証（生体認証）の手形が表示され、七海は自分の手のひらを重ねる。

30秒

1分

2分

3分

c

:

:
: BOOKaマスター登録中
:
: BOOKaマスター登録中

あれ〜なんだか凄く時間が掛かる。中古品だから遅いの？
マスター登録の為にバイオメトリクス認証中なので、重ねた手のひらを動かせない。

七海は仕方なく、店の中央に突っ立ったまま、電子精霊が光を放ちながら回り続ける姿をぼんやり眺めている。

そろそろ15分 手のひらがジツトリ汗ばんで辛くなってきた
という時、電子精霊のHP数値が眩しく点滅する。

「BOOKaマスター登録 終了しました。
オフィリア0003 のHPリニューアル完了」

Ophelia {オフィリア0003}
HP:999999 (小数点以下切捨て)

液晶画面に表示されたデジタル数字を見て、七海は小さな悲鳴をあげた。

(えっ HP999999 って 百千万、10万!!MAXって
こと???)

その異様な状態に、七海は慌てて「BOOKa」を閉じて鞆にしま
う。

だが、彼女をしつこく覗き見ていたナンパ男はそれを見逃さなかった。ゆっくり背後から近寄ると、右肩を強い力で捕える。驚いて振り返る七海の耳元で、小声でつぶやいた。

「さっき、ガラクタを弁償してあげるって言ったよね。一枚でいいかな」

「そんなのいりません、さようなら」

「ちよつと待てよ！俺は、その薄汚れた本を買ってやるって言ってるんだ！！」

男は声を荒げながら、少女の細い二の腕を掴み、人目も気にせず執拗に迫ってくる。

ぷちんっ　ぷちんっぷちんっ　　何か切れた

「やめてください、離してっつ、コノオ！！くらえっつ」

「BOOKa」の入った鞆を奪おうと男が手を伸ばした瞬間、七海は伸びをしたあと、サッカーのヘディングのように弾みをつけて前にのめる。

ごおっつっん！！

ナンパ男のデコに見事な頭突きがHit！する。悲鳴を上げ屈み込むその襟首を引き寄せ、勢い付けて

ゴツツツ！！

ゴツツツ！！！！

さらに2発頭突きを喰らい、ナンパ男は痛みで悶絶してのた打ち回る。

七海はその隙に店から一目散で飛び出していた。

ちなみに彼女は見事な石頭の持ち主で、小学生の時「ヘッドバット（頭突き）」とあだ名で呼ばれていた。

No.02 電子精霊 オフィーリア0003(後書き)

9/18訂正&加筆

スベシャル

SPシリーズ 妖精タイプのデジタルペット

Booka社 チーフデザイナー 大園マニ 最後の作品

出荷前日 倉庫火災により商品及びデータ消失

試作品として製作された5体も、コーラル商事倒産により行方不明。

この項目は加筆、訂正などをして下さる協力者を求めています。

管理人：クイーン

|||||

大通り沿い、白い壁面にツタの張った、ありふれた6階建て中古マンション。

エレベーターを利用する事なく、階段を上がって2階右奥の部屋。彼女は家にたどり着くと、着替えもそこにパソコンを立ち上げ電子精霊の情報収集を始める。

数千種類という膨大なバリエーションを誇る3Dデジタルペット。さらにシエイクスピア作ハムレット その悲劇のヒロイン「オフィリア」とてもありふれた検索キーワード。

ググって ググって ググって ググって ググって ググって
数十回も検索を繰り返した結果、それらしい情報を探し当てる。

「オフィリア 間違いない、この子のコトだけ〜」

七海は、ほどけかけた三つ編みを指先に絡めながらぼそぼそ呟いた。やっと見つ出したのは、クイーンという管理人のサイト1件のみ。掲載された画像も酷く不鮮明で、辛うじてシルエットが判る程度だった。

「ナナ、電気点けないのか…制服も脱ぎ散らかしてるぞ。」

声をかけられてふと気が付くと、すでに日は沈み真つ暗な部屋の中、右手に制服のスカート、左手にマイバツクを持った家の主が扉の前に立っている。

座椅子にあぐらをかき、パソコン画面を食入るように見つめていた妹が振り返る。

「あつ、カズ兄お帰りなさい〜今日は凄いブツを見つけたの!!」
「その前に、脱ぎっぱなしにしない!ちゃんと着替えてパンツいちよで人前に出ない!!」

「上着が長いからパンツ見えないよつ、これから着替えようと思っ
ていたんだもん」

おおらかであどけない(恥じらいの無い)妹の返事に、兄の 南風^{はえ}
原 数馬^{かずま}は大きなため息をつく。

肩まで伸びたクセの無い漆黒の髪 切れ長の目 鼻筋の通った顔立
ちの優美な雰囲気を持つ青年だ。抜群のルックスだが、その肩にい
つも金色の蛙(電子精霊)を乗せているので、大学のファンクラブ
女子から、密かに「カエルの王子様」と呼ばれている。

世捨て人の両親は離島に移住してしまったので、大学生の彼が、妹
七海の世話を見ている。

「にーに 学校前のブッククラブで中古「BOOKa」を見つけたの、
この子が私の電子精霊よ。」

七海は満面の笑みを浮かべ、薄汚れたソレを大切そうに学生鞆から
取り出すと表紙を開く。

一瞬、光の玉が浮び上がり、小さな人型へと変化すると

O p h e l i a ｝オフィーリア0003｝ HP:9999999

白黒の優雅な文様の大きな蝶の羽に、純白のレースのセミロングドレス

緩くウェーブのかかった薄桃色の長い髪

絵本の中から飛び出してきた、息を呑むような美しい電子精霊

くるり

くるり

くるり

可憐なステップでダンスを踊りながら、小さな精霊は兄妹の前に舞い降りた。

「オフィーリア、私のにーにに挨拶して。」

「マスター七海、にーに とは何ですか？」

七海の呼びかけに、オフィーリアは愛らしく小首をかしげる。

「こんばんはオフィーリア、にーに お兄さんという意味だよ。」
デジタルペットAIは、名前を呼び挨拶する相手の声紋認識をするプログラムになっている。

数馬の差し出した手に ふわり と羽を広げ近づく可憐な電子精霊。
なぜか妹は、わくわくするような悪戯っぽい微笑を浮かべている。

差し出した数馬の指先に、オフィーリアの小さな手が伸ばされ

なんだ！！！！ コレは！！！！

差し出した手は驚きに震えが走り、反射的に腕を引っ込めた。
数馬は信じられないモノを見る。

これは、変だ、
マトモじゃない、
ありえない、異様だ

七海の持つ「目利き」の才能と「強運」はとんでもない電子精霊を
引き寄せた。

「こんばんは にーに バイオメトリクス認識しました。」
オフィーリアは感情の無い声で挨拶を終えると、何事も無かったよ
うに、数馬から離れ七海の頭の上にちょこんと座る。

妹は嬉しそうな顔で、驚きを隠せない兄にささやく。
「凄いでしょ、オフィーリアは私の電子精霊」

Ophelia (オフィーリア) 0003
HP (Hit Point) : 999999
チート エラー バグ
その電子精霊は異様な高数値を示していた。

「この数値は正しいみたいだ。
限定品「BOOKa」電子精霊はHP:10000前後だけど、倉
庫火災で焼失したオフィーリア99体分のHPが全部持ち越される
と、

HP：10000×（99体＋試作品1体）＝HP：999999
（表示6桁まで）

になる計算だからね。」

パソコン画面を覗き込み、フリー電子精霊図鑑サイトの説明を見ながら数馬は答える。

「つまり、試作品として製作された5体のうち、現存するオフィリアはこの1体だけ。」

一点もの・激レア・現物限り・限定品

オークションバイヤーである七海の脳裏には、魅惑的な言葉のオンパレード。

電子精霊の知識が皆無の妹は、キラキラ瞳を輝かせながら兄の説明を聴き入る。

「そして電子精霊HP（Hit Point）は電子マネーに換金できる。相場がHP3＝電子マネー1円」

「じゃあ、HP：999999＝33万円なの！！！！！！！！」

どひゃあああ～～～～～大当たり

マクドナルドでナンパ男が、目の色変えて言い寄った理由が判った。

「これはオークションで高額落札間違えナシ！久々の大儲けだよ。」
同じく、興奮して声を弾ませる兄に、妹はそっけなく答える。

「カズにーに、オークションで売らないよ。オフィリアは私の電子精霊だもん。」

「えっ!?!」

目の前にいるのは、パンツいっちょのあどけない妹ではなく、瞳の奥に策略を巡らし、計算高く算盤をはじく小悪魔娘。

「私は、金の卵を産むニワトリを売るつもりないよ! オフィーリアは、この程度(33万)の価値じゃないと思うの。」

七海には、何か、言葉にできない不思議な予感があった。

彼女のオークションバイヤーとして鍛え抜かれた「目利き」の才能、そして、偶然と呼ぶには不自然なほどの「強運」は、やがて様々な人々を混乱の渦に巻き込むだろう。

「とりあえず、もっと情報が欲しいわ。」

このサイトの管理人さん、オフィーリアについて何か知っているみたい。

連絡取れるかな?」

NO.03 フリー電子精霊図鑑(後書き)

9 / 19 加筆&訂正

No.04 管理人：クイーン

23インチの薄型液晶モニターに映し出されたのは、個人サーバーの有料会員制チャット

黒とパープルをベースカラーにした、中世ゴシック調のサイトデザイン

暗い森の中に豪華な宮殿が現れ、次々と画面が切り替わり、怪しげなランプの明かりが城の内部を照らし出す。

広い廊下の左右には数百の扉、すべてが各チャットルームへの入り口で、めまぐるしく開閉を繰り返している。

迷路のように入り組んだ長い廊下の最奥、突き当たりに鎮座する黄金の獅子像をクリック

特別会員専用のチャットルーム入口

部屋の中央に置かれた天蓋付きベッドに横たわるチャットルームの主、

ゴージャスなブロンドの巻き毛、シースルーの紅いドレスは豊満な裸体が透けて見える。

長い睫に縁取られた切れ長な瞳に光が宿り、ゆっくりと身体を起こし妖艶に微笑むのは
絶世美女のアバター。

黒とパープルの格子模様の絨毯の上にある黒い塊が動き出す。

長い間ベッドの足元にひれ伏していた黒スーツのアバターは、女主人が目覚めるのを待っていた。

大園トオル「クイーン」は、右手をひらひらと振り合図を送ると遮光カーテンを勢いよく開ける。

「あゝっ、そういえば50時間寝てないな、コーヒーよりユンケル5本持ってきて。」

それからチャット交代頼む、コイツ、ストーカーっぽくて相手するの辛いんだよね。」

横浜駅に程近い高層マンション、地上12階から帰宅ラッシュの始まったターミナル駅とビジネス、繁華街のネオンを窓から見下ろす。彼が運営するのは、3DCG(3Dコンピュータグラフィック)美女アバターがお相手する会員制チャットと、3Dデジタルペット「BOOKa」電子精霊データベースサイト。

学生の時、趣味で立ち上げたデータベースサイトが思わぬ収益を生み出し、それをビジネスとして立ち上げた。

最近3Dデジタルペット「BOOKa」の最新情報を事務的に更新するだけのだったのが、

2日前、BBSに奇妙な書き込みがあり、大園トオル「クイーン」は、不眠不休で情報収集に追われる。

眠気覚ましに栄養ドリンクをがぶ飲みしながら、モニターに表示された、大きな羽を持つ美しい妖精の姿に魅入る。

オフィーリア、どんな手段を使っても手に入れる。

最愛の姉 大園ナオ 最後の作品、奇跡の電子精霊。

「No.3894」オフィリアについて 投稿者：ヘッドバット
投稿日2010/07/03

初めまして、クインさん

昨日、近所のリサイクルショップで買った「BOOKa」のデジタルペットが

オフィリアという名前でした。

僕は電子精霊を持つのが初めてなので、詳しいことは判りません。

これは レア電子精霊なのですか？

写真

「No.3895」Re.オフィリアについて 投稿者：管理人
クイン 投稿日2010/07/03

ヘッドバットさん デジタルペット情報ありがとうございます。

画像を調べたところ、これは間違いなくオフィリアです。

ここまで鮮明な画像は、私も初めて見ました。

提供画像を「フリー電子精霊辞典」へ載せても宜しいでしょうか？

オフィリアは、初心者さんには扱いが難しい電子精霊です。

操作で何か困ったことや解らないことがありましたら、お気軽にメールくださいね。

「No.3896」Re. オフィーリアについて 投稿者：名無し
投稿日2010/07/03

激レアキターーーーーー

ふつくしい ふつくしい ふつくしい ふつくしい

って、これ偽モンだろ

「No.3900」オフィーリア写真と動画 投稿者：ヘッドバツ
ト 投稿日2010/07/04

こんばんは、クインさん、辞典への掲載OKです。
新たに動画も撮影しました。

動画

名無しさん、オフィーリアは本物ですよ。

「No.3901」Re. オフィーリア写真と動画 投稿者：管理
人クイン 投稿日2010/07/05

ヘッドバツさん、ご協力感謝します。

今週中に、辞典への追加掲載させていただきます。

この動画のダンス ウマ ウマ (ノ) (ノ)~~~~~』。+ .

かわいいつ!!。 + . 』

いっしょに踊っている金色力エルくとオフィーリア 息ぴったり

実は、私からヘッドパッドさんへご相談があります。

宜しければコチラへメールを下さい。

- - - - -

「No.3902」オフィーリア写真と動画 その2 投稿者：へ

ッドパット 投稿日2010/07/05

おはようございます、クイーンさん。

ね、ねむい〜昨日徹夜で仕上げた動画です。

動画

では、これから学校に行ってきます。

- - - - -

クイーンは、アクセス解析からIPを調べ、暫く画面の文字の羅列を覗きこむ。

端末固有番号から、BBSに書き込んだ携帯電話の所有者個人情報

を割り出す。

しかし、ケイタイ所有者 はえはのりいいち 南風原耕一の住所は南海の孤島、圏外で

通話不能。

発信基地も、南の島の県庁所在地、大型ショッピングセンター内ゲ
ーセンを示している。

くっ、くっ、くっ、あははははあっ

深夜1時、すでにバイト学生も帰宅した一人きりの部屋で、彼は髪
を振り乱し、涙を流しながら笑いの発作に体を振る。

数分間声を殺して笑い続けた後、なんとか感情を抑え、ゼイゼイと
苦しげに肩で息をしながら黒々とクマの浮き出た涙目をこする。

「ああ、これじゃあ、いくら捜しても見つからなかったハズだ。」
必死に血眼で捜していた。しかし、どんなに捜してもオフィーリア
には辿り着かなかった。

発信先の南の島には、日本国でありながら異国扱いの軍事基地が存
在する。

軍事基地内に「オフィーリア」が持ち込まれた時点で、国内ネット
ワークから切り離され追跡が不可能になっていたので。

全情報がりセットされた電子精霊は、新たな持ち主がオンライン登
録したことで、再び現れた。

その時

BBSの新規書き込みを知らせる小窓がモニター上に表示される。

投稿者：ヘッドバット 電子精霊「オフィーリア」のマスター

添付された動画は、妖精がアイススケートメダリストと同じ振り付
けのダンスを踊っていた。

ほぼ毎日、新作動画をアップしつづけている。

こいつはデータベース掲示板を自分のブログと勘違いしてるみたい
だな。

ンデインんだ」

「うつつ、カエルのクセに〜。でもお客さんは、少しドジっ娘の方が萌えるのよ！」

オークションバイヤーの七海は、人目を引きつけ、見栄えする商品の撮影方法を熟知していた。

掲示板のフリーリア動画は、高度な編集&加工&BGMで、マニアの期待に答えるクオリティに仕上がってる。

「映画の予告編が一番美味しいシーンを詰め込んでるみたいに、オフリーリア動画も同じ役目をするの。」

その時

彼女のパジャマの胸ポケットに仕舞っていたケイタイからメールの受信音。

アドレスを確認すると、七海は悪戯が成功した子供のようにニヤリと笑う。

「美味しい餌に、大物が喰いついてきました〜」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8253j/>

電子精霊使い

2011年9月24日13時50分発行